

2024年問題への対応と 工事の安全管理

当社グループの事業全体に共通する課題のうち2024年度に重点的に取り組んだ項目として、建設業と運輸業の時間外労働の上限規制に伴い発生するいわゆる「2024年問題」への対応と、重大事故の防止に向けた「工事の安全管理」の取り組み状況を紹介します。

建設業の2024年問題 ～働き方改革及び工事円滑化の推進～

業界団体との意見交換会等に基づき、長時間労働の是正が急務である業界からの要望を踏まえて、受注者の負担軽減に対する取り組みを進めています。（詳細はP.14-15）

業界の要望を踏まえた最優先課題

1. 設計変更や対外協議のための資料作成の削減
2. 品質管理、出来高管理の効率化、書類の簡素化



（一社）日建連と当社役員を交えた意見交換会（2024年2月）



NEXCO西日本 代表取締役 芝村副社長執行役員（当時） （一社）日本建設業連合会 風間公共工事委員長



取り組みの浸透のため NEXCO3会社共通で 使用している 行動宣言ポスター

課題解決のために取り組む4つの柱

設計図書の 品質向上

- ・設計成果品に係る照査体制の強化（十分な確認期間を確保し、受発注者間にて照査を実施）

書類作成の 軽減

- ・提出頻度の多い定型書類を集約化
- ・受発注者双方が発議できる工事変更等検討会を導入し、意思決定を迅速化かつ作成資料の簡素化

適正な 工期の設定

- ・週休2日工事の完全実施（災害復旧を除く全ての工事を週休2日とする）
- ・工事着手前の準備期間及び工事完了後の後片付け期間の十分な確保

施工管理の 効率化・省力化

- ・一定の品質基準を満たすコンクリート（配合）であれば各種試験の省略及び提出書類の削減

運輸業の2024年問題 ～物流事業者への支援～

大型車の駐車マスの増設

大型車の駐車マス不足対策として、V字駐車マスへのレイアウト変更等により、大型車駐車マスの拡充を実施（詳細はP.45）



ダブル連結トラック駐車マスの整備

深刻なドライバー不足への対応のため、トラックでの輸送を省人化できる「ダブル連結トラック」の駐車マスを整備（詳細はP.45）



大型車の短時間限定駐車マスの実証実験

より確実な「休憩」機会を確保するため、大型車の短時間限定駐車マスを実証実験中（詳細はP.46）



シャワーステーションの整備

休憩の快適性向上のため、コインシャワーとコインランドリーを併設したシャワーステーションを11カ所整備（詳細はP.47）

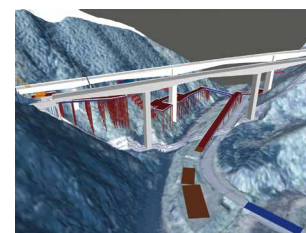


建設業の働き方改革及び工事円滑化に向けた4つの柱

2024年度の主な取り組み

1 設計図書の品質向上

工程初期の調査・設計段階で3次元モデルを活用して集中的に検討し、工事開始後の手戻りを防止



3次元モデルを用いた橋梁設計により、仮橋などの仮設物やクレーンなどの配置・計画を検討

「設計・計画WG（ワーキンググループ）」を義務化

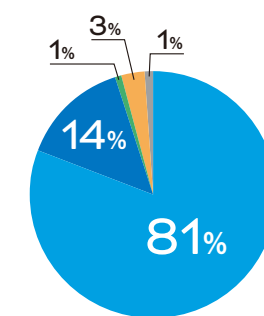
豊富な経験を有する社員をメンバーに含めた「設計・計画WG」を実施し、現地状況に応じた工事用進入路や工法選定等の確認を行い、適切な工事計画を策定



2 適正な工期の設定

週休2日（発注者指定方式）を継続実施

2024年に実施したフォローアップでは、95%の工事で「4週8休」が確保できていることを確認



アンケート結果

- 4週8休（土日閉所）
- 4週8休（通期）
- 4週7休
- 4週6休以下
- 無回答

施工日数の算出方法に「雨休率」を新設

年間の休日に加え、降雨・降雪や猛暑日などを考慮した工期を設定できるよう、雨休率（0.4）を新設し、必要な施工期間を確保



3 書類作成の軽減

受発注者の役割分担に関する判断事例を共有

詳細設計の追加時など、受注者の負担で実施する業務と発注者が実施する業務の境界を判断しやすくし、また、受注者の負担となる場合の必要な費用と工期を確保するために、参考となる判断事例を設計変更ガイドラインに追記



受発注者間のコミュニケーション向上により判断や課題解決にかかる労力を削減

「事務所長と受注者（本・支店及び現場）による懸案事項に関する確認会議」や「工事変更等検討会」を活用し、受注者の資料作成や指示待ち時間の削減並びに発注者による工事変更指示や方針検討の効率化を実施



4 施工管理の効率化・省力化

施工管理アプリを導入し、出来形管理を効率化

タブレット等により現場にいながら出来形管理書類を作成できる環境を整備し、書類作成時間を削減



遠隔立会の拡大

遠隔立会の要件を見直し、遠隔立会をより活用しやすいよう改善



タブレット及びアプリを使用した遠隔立会実施例

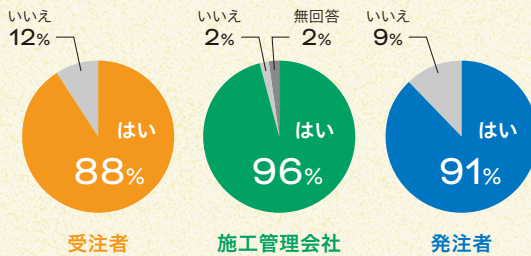
建設業の働き方改革及び工事円滑化フォローアップアンケート結果 現場における認知度・浸透度



工事管理スリム化ガイド『4-you』
4つの柱の推進に必要な情報をまとめたガイドブックを2024年3月に公表。適宜、取り組み状況や意見を踏まえた改定も実施。

- (1) アンケート概要
働き方改革及び工事円滑化の取り組みの認知度・浸透度を、全14項目で調査
- (2) 調査期間 2024年8月22日～2024年10月4日
- (3) アンケート対象者
受注者：既契約工事(土木)のうち2023年度より前に発注した工事(276工事)
発注者：上記に該当する当社の担当組織(116組織)
施工管理会社：上記に該当する担当の施工管理業務(134業務)
- (4) 現地ヒアリングの実施
アンケートをもとに抽出した22工事について現地ヒアリングを実施し、アンケートを補完

Q. 工事管理スリム化ガイドを、資料作成や受発注者間の協議に活用していますか



受注者の声
発注者からの対外協議資料作成依頼や内部説明資料作成の依頼が、これまでと比べて少し減っていると感じます。受発注者間の役割分担の明確化が進めば、改善も更に進むのでは。

施工管理会社の声
働き方改革のためのワンデーレスポンスやウィークリースタンスを改善するよう努めていますが、発注者が多忙なため難しい場面がまだあります。受発注者間のコミュニケーションを更に高める必要があると感じています。

工事管理スリム化ガイド『4-you』 活用している内容ベスト5

- ① 週間工程表に立会予約・現場代理人不在届等を集約し事務手間を軽減
- ② 施工体制台帳や安全教育訓練資料に不要な資料の掲載は不要と明記したことで提出のやり取りが改善
- ③ ウェブ会議を開催する機会が増え、移動時間や紙での書類が削減
- ④ 遠隔臨場(主に遠方の工場検査関係)の活用で移動時間が削減
- ⑤ 発注者の立会時は写真不要であることが浸透し事務作業が減少

アンケートにより判明した改善点について、引き続き、具体的な対策を行い、受発注者双方の働き方改革及び工事円滑化に取り組みます。



TOPICS

香川労働局より、ベストプラクティス企業に選定されました

厚生労働省香川労働局が行う「過重労働解消キャンペーン」の一環として、地域において長時間労働削減等に向けて積極的に取り組んでいる「ベストプラクティス企業」に当社が発注する耐震補強工事が選定され、2024年11月に、香川労働局長が高松道の耐震補強工事の現場を訪問されました。



責任者の声 受発注者双方の業務効率化へ

今回は、当社の働き方改革及び工事円滑化の取り組みを評価いただきました。「休・効・適・話」を合言葉に、受注者の皆さまと働き方改革に取り組み、今まで当たり前に提出を求めていた書類の中にも簡素化できるものがあることに気づかされました。これは自社の業務効率化への気づきにもつながっています。働き方改革及び工事円滑化の取り組みは、まだまだ過渡期です。書類の要否などの判断には個人差が生じてしまうため、積極的に所員へ「それは省力化できないか？」と確認するなど、個人の意識に定着させる努力を重ねています。

四国支社 香川高速道路事務所 所長 石黒 政幸



工事の安全管理 ～重大事故の防止を徹底～

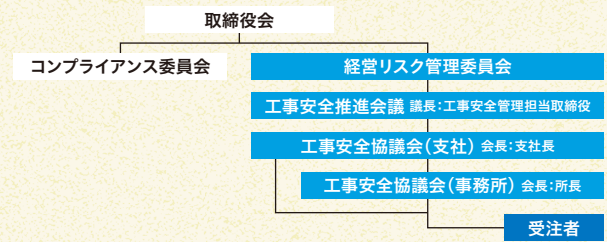
当社グループでは、全ての工事において安全を第一に考え、「安全と品質を確保したうえで、工期内に工事を完成させ、社会に貢献する」という受発注者共通の目標のもと、社会から信頼される会社であり続けられるよう、工事安全管理に取り組んでいます。2016年の新名神建設工事における有馬川橋橋桁落下事故を契機に、「工事安全管理規程」を制定し、受発注者が協力して、工事着手前に重大事故リスクを洗い出し、必要な予防措置や是正措置などの安全対策を確認したうえで、工事に着手する安全管理を推進しています。



現場での安全パトロール

工事の安全管理体制

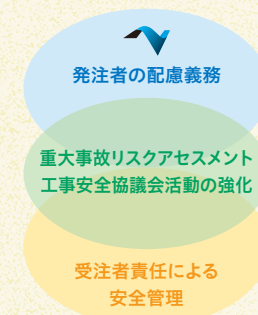
工事中事故を経営リスクとして捉え、経営リスク管理委員会内に工事安全推進会議を設置しています。全社的な情報共有による安全施策の水平展開や意見交換、安全技術の検討を行い、工事安全レベルの向上を図っています。



工事安全標語を用いた安全啓発ポスター

重大事故リスクマネジメントシステムの着実な運用

『受発注者一体となりリスクコミュニケーションを行い、安全な現場を目指す』ため、重大事故リスクアセスメントを軸とした、重大事故リスクマネジメントシステムを着実に運用し、工事中事故撲滅に向けた安全管理に努めています。



「工事安全誓いの日」

新名神高速道路有馬川橋橋桁落下事故のあった4月22日を「工事安全誓いの日」と定め、4～5月に重点的に工事安全性向上の取り組みを実施。



有馬川橋事故の記録映像を視聴

社員教育

階層別研修や外部講師を招いた講演会等で、知識向上と意識高揚を図る。



工事安全管理責任に関する弁護士講義

工事における重大事故の連鎖を防ぐための緊急対応

2025年1月の中国道鷹の巣橋吊足場崩落事故をはじめ、工事における重大事故が短期間に続発したことを受け、工事の安全管理の徹底について、今一度受発注者間で確認を行い、安全対策を強化しています。



緊急工事安全推進会議



受発注者による緊急安全大会

- (1) 全ての工事において工事中事故の再発防止及び安全点検を指示
- (2) 全支社において当社及び受注者による緊急安全大会を開催し、事故概要や再発防止策の共有並びに工事安全の取り組みと安全意識の高揚を図る討議を実施
- (3) 重大事故発生工事の施工会社トップに対し下記安全対策の徹底を強く要請
 - ・トップからの指示により安全総点検及び協力会社を含めた安全確認を実施すること
 - ・元請と協力会社とのコミュニケーションをしっかりとること
- (4) 緊急の工事安全推進会議を実施し、社内で事故の詳細や再発防止策を共有
- (5) 社員に向けて、社長から「工事安全に関する緊急メッセージ」を発出

工事安全に関する緊急メッセージ

2025年2月20日 代表取締役社長 芝村 善治

当社の工事安全の取り組みについて、過去に新名神建設工事での事故により作業員の尊い命が奪われ、交差する一般道の長期間にわたる通行止めといった重大事案に起因し、計画段階における受発注者一体となった重大事故リスクアセスメントを策定し、着実に運用してきたところであります。そのような中で、令和7年に入り、上部工工事に起因する吊り足場崩落事故での作業員の死亡・重傷事案や作業員の受傷はなかったものの、送電線からの放電、仮設クレーンの滑走及び多軸台車移動時の橋桁横転事案などの上部工工事での重大事故が続発しました。これらの事故発生を受け、緊急の総点検、安全大会や必要に応じて原因究明のための有識者会議を実施し、また、連続して発生した同種の工事中事故を繰り返さないため事故原因、再発防止策などを逐次、社内及び当社発注のすべての工事受注者に情報共有するとともに、当該事故発生の上部工工事受注者のトップに対して、受注者自らの取り組み、現場作業員とのコミュニケーションの更なる強化を要請したところであります。この度の工事中事故は、施工計画書等にない作業を行ったり、また、作業手順を省略したことなどによるものであることから、引き続き重大事故リスクアセスメントを着実に運用するとともに、受注者に対して、協力会社との一層のコミュニケーション向上を図り、各現場の受注者と協力会社で具体的な安全対策や安全意識の定着に必要な対策についての意見交換と対策の着実な履行を行うよう要請し、我々発注者はその実施状況の確認を行うことで、重大事故の発生を防止するようにお願いします。